

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191500079		
法人名	有限会社 ナチュラル・ライフ		
事業所名	グループホーム恵寿式番館		
所在地	岐阜県中津川市苗木4618-96		
自己評価作成日	平成28年2月25日	評価結果市町村受理日	平成28年5月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JizyosyoCd=2191500079-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成28年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム恵寿式番館では、たとえ認知症になったとしても最後まで「人が人として生きていく」上で、その方の人生・大切にしている事、大事な人、などを受け止めると同時にわれわれ自身がどのようにして入居者に受け入れられるかを常に考え、喜び、楽しみ、苦しみ、を共感し合い、その上で「恵寿」という「もう一つの家」で一緒に暮らすことを目指します。また、スタッフに関しても、法人独自の研修を取り組み、「尊厳あるその人らしい穏やかな生活」を目標とし、より良いケアを目指して取り組んでいます。地域との交流に加えて、認知症という病気を理解していただける働きかけを積極的に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、開設5年目である。法人は、認知症に対する専門教育を充実させ、併せて、資格の取得を奨励し、働き甲斐のある職場環境を築いている。利用者が、心豊かな人生を、最期まで送れるように、家族と地域住民との信頼関係を大切にしながら、馴染みの生活環境を整え、自分らしい暮らしの支援をしている。管理者・職員は、現状に留まることなく、更なるサービスの質の向上に向けて、自己研鑽を重ね、課題解決には、同じ方向性で連帯感を強めながら、意欲的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「尊厳のあるその人らしい穏やかな生活」が送れるよう理念を玄関に掲げ、常に念頭において日々のケアに勤めるようにしている。	理念は、具体的な実践につなげるために、支援方針の7原則を掲げ、職員間で共有をしている。利用者が、慣れ親しんだ地域の中で、穏やかな暮らしが継続できるように支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域主催の行事、お祭りに出来る限り参加し、草刈作業等の奉仕活動にも参加させていただいている。施設主催の納涼祭ではご家族や地域の方へポスター等でお知らせし気軽に遊びに来ていただいている。	町内会員として、常会に参加をし、地域と事業所とで情報を交換している。ホームの行事には、住民を招き、地元恒例の左義長や餅つきなどの交流事業で、地域の一員としてつきあっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営会議では現在の入居者情報をお伝えし、施設状況を報告している。施設見学の際には認知症を理解していただけるよう、支援方法などわかりやすくお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で、施設状況、施設の取り組みについて報告を行なっている。地域の要望や災害時の協力体制なども検討している。	会議は、定期的開催をし、運営の実情や事業計画を報告し、意見を交わしている。災害時の安全な避難誘導やマニュアルの整備についての意見や提案を受け、運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当からは、日頃から事業所の実情や個別のケアサービスの取り組みなど積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議では、担当者に事業所の実情を伝えている。行政主催の研修会やグループホーム部会で、情報を交換し、連携ができています。困難事例は、担当課へ出向いて相談し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしておらず、身体拘束をしないケアの継続と身体拘束廃止の重要性を職員に理解してもらえるよう研修を行なっている。	身体拘束をしない介護の研修会で、理解を深め、拘束をしないことを基本に実践をしている。日中は、玄関の施錠はせず、一人ひとりの行動や表情を見守りながら、その人に寄り添ったケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社時、入社後も継続して虐待防止への意識を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や地域権利擁護事業の外部研修に参加するなどして学べるよう機会を設けるようにする。また実際に成年後見制度を利用される方がいるので職員にその理解を周知していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をとり、契約内容の説明を行い、理解と納得をしていただけるよう努めている。契約後も、疑問があれば連絡をいただけるようお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等で意見や要望をいただくと共に、いただいた要望は事業所運営に反映出来るよう、また利用者のケアプランに反映し利用者、家族に周知しスタッフがケアに繋げている。また行事計画等にも反映させるよう取り組んでいる。	家族の面会時や電話等で、意見や要望を確認している。家族が参加しやすい日程での運営推進会議や、行事開催の要望がある。利用者の意見は、介護相談員からも伝えてもらい、運営に反映させている。	家族からは、より多くの意見や要望が出せるように、さらなる取り組みに期待をしたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各職員には責任を持って業務をもってもらい、そこから個人の意見を管理者が把握できる時間を設けている。また随時面談等の意見、提案を出来る時間を設けている。	運営者は、職員から個別に意見や要望を聞き、また、気づいたことは、その都度、対策を講じている。利用者の活動しやすい設備の改修や、脳のトレーニングに写経やパズルの採用を提案し、実現をしている。	管理者と職員全体で話し合う場を定例化し、同じ方向性を共有しながら、運営の強化につながるよう期待をしたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフが働きやすい環境であるよう、個別的に面談を行ったり、個々の能力が引き出せるよう努めているとともに、その意見が日々の業務に反映できる環境・条件になるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	処遇改善研修を独自のプログラムで毎月1回行うなうようにし、ケアの向上を目指しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内独自で同業者で行なう会議(グループホーム部会)を定期的に行ない、意見交流に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の相談時は必ず本人の面談を行ない、本人の気持ちや要望の聞き取りを行なっている。職員も本人との関係づくりを積極的に行ない、本人が話しやすい雰囲気を作り不安などを受け止める努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの情報は細かな部分も基本情報シート等使用し聞き取りし受け止めている。面会時や電話等によって日頃の様子をおつたえさせていただいています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には、問題点を見極め、担当ケアマネと連携しながら、他のサービス利用の可能性について情報交換を行なうよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ空間で時間を過ごす中で、お年寄りと一緒に生活したり作業に取り組むことで支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の面会等の段取りも電話などで早めに伝えていただけるようお願いし、要望やこちらからのお知らせ等をスタッフへの申し送りを周知させ、家族、事業所の関係作りを心がけています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	その方が利用してきた美容院や友人等の面談も調整しながら馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	入居時のアセスメントから、なじみの人や場を把握している。友人とは、外食や市民講座などへ家族の協力を得ながら出かけている。また、友人や知人と手紙による交流も継続をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の行動障害を見極め、利用者同士でもスタッフが関係作りの橋渡しを行い、利用者同士が支えあう場面を作れるよう努めている。世話をしてくださろうとされる方をも支える努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後については、利用者様の状況に合わせてご家族と連携を取るよう心掛けている。退去後の支援場所の最新情報を出来る範囲で調べお伝えするよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの生活歴を把握し、ご本人の希望や意向も汲み取れる努力をしている。	個々の希望や意向は、日常の会話や行動、表情から読み取っている。また、生活歴・職業歴からも、把握している。把握したことは、職員間で共有し、その人らしく生きがいのある暮らし方につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のご家族からの情報を含め、ご本人の生活歴や環境の情報収集に努めている。入居後もご本人からの情報を随時把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を利用者個々に把握し生活の様子をケア記録し申し送り、スタッフ全員が把握していくようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	暮らしていく生活の中でご本人の表情や言動の原因把握に努め、意見やアイデアを出し合いながら介護計画を作成している。	介護計画は、本人・家族の意向を確認し、担当職員を中心に、関係者でより良いケアにつながる支援を出し合い、作成をしている。モニタリングは、定期的に行い、現状に即して、その人らしく生き生きと暮らせるように計画をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に記入し情報を共有している。また個人カルテを作成し、スタッフが利用者の情報を把握しやすいような取り組みを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状況や思いを汲み取って、状況変化に対応できるよう、利用者のニーズに応えることが出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在ボランティアの受け入れはなく、市や地域と連携を図り、ボランティアの受け入れを考えていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力機関の先生に当事業所の利用者の身体状態を把握していただき通院にはスタッフが同行している。また、本人の馴染みの医者による継続的な医療が受けられるようご本人、家族と相談し希望の医療が受けられるようにしている。	かかりつけ医は、本人・家族の希望に対応している。協力医への通院介助は、職員が同行し、他の通院は、家族が付き添い、医療情報を共有している。急変時は、協力医と連携し、適切に支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、週4勤務の看護師が2名交替で勤務しており、利用者の身体状況のみで、介護職と看護職の関係の連携をしながら情報交換し連携を取り相談しながら一人ひとりの健康状態を保つよう努め支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご本人の現状と今後の予測できる状況について医師と相談し連携に努めている。また入院中は病院の担当医師や看護師に診療の状況を確認している。退院では退院調整のソーシャルワーカーと話し合い、今後の支援方法を検討させていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所内で出来ることを掛かるつけ医に理解していただき、状態の変化によっては他機関とも連携がとれるような働きがけをしている。重度化した場合、事業所のできる範囲の対応について確認書を交わしながらできる事の説明をおこなっている。	重度化や状態の変化に応じ、家族と意思の確認書を取り交わしている。本人・家族の希望に応じ、医療処置の伴わない、看取りの方針を提示し、他の選択肢も含めた支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生に備え、それぞれに対応できるマニュアルを整備し職員に周知している。外部及び内部研修の充実を図っていくよう努める。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設独自の訓練を行ない、災害時の対応を強化していきたい。新人スタッフの研修教育も含めスタッフの災害時の意識強化を目指したい。地域との合同訓練は取り組めていないので区、地域との連携に取り協力体制を築いていきたい。	消防署立ち合いによる、災害訓練と自主訓練を定期的実施している。夜間想定避難誘導と、消火器操作、自家発電機の使用方法などがある。連絡網に、地域の区長を加え、備蓄も確保している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報にかかわるもの(データ・記録等)については扱い方ルールを徹底しスタッフに周知してもらえるよう努める。契約時に、個人情報使用同意書を交わしている。	トイレ介助は、耳元でさりげなく声をかけ、入浴介助は、タオルを使用して、羞恥心に配慮をしている。言葉の表現や態度で、自尊心を傷つけないよう、ケアの7原則に沿って、周知・徹底をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの力に合わせた働きかけをし、できる限り自己決定してもらえるよう心がけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所でのタイムスケジュールはスタッフの業務スケジュール以外は作成せず、一日一日で利用者に合わせてケアに当たっている。(散歩、趣味などきぼうされる)			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域の美容院の方にヘアカットをお願いしているがご本人の希望を叶えることが出来るようスタッフが美容院の方との疎通を配慮している。またご家族がカットされる場合もあるのでその環境を整えたりしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	リビング内にキッチンを設けており、すべての料理を入居者の前で作ります。入居者様にもその方の出来ること(準備、盛り付け、きざみ、片付けなど)を一緒に行っている。	職員が献立をつくり、対面式のキッチンで調理をしている。利用者は、調理から盛り付け、下膳・食器洗いなどに関わり、食事の楽しさを味わっている。職員も、介助と楽しい会話をしながら、一緒に食事をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量を把握し、食事の形状や盛り付ける量を工夫し、おいしく食べられるよう支援している。塩分制限のある利用者に対しては薄味を心がけている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者様一人ひとりが出来る範囲に応じて歯磨きをしていただけるよう見守り、義歯洗浄などで口腔内の清潔を保持している。			

岐阜県 グループホーム恵寿式番館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人が気持ちよく排泄できるよう、排泄パターン、習慣を見極め、声掛けや排泄支援を行っている。	個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導をしている。日中と夜間は、パッドのサイズを使い分け、排泄用品の費用を節減し、また、紙オムツからリハビリパンツに移行できるよう、自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的に水分が摂れるように支援している。水分摂取記録を付けて適量の目安を測る。また排泄の状況を毎日記録し個々の排泄チェックの目安とし適切な対応を看護師と相談しおこなっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は決めているが、ご本人の希望があれば入りたい時間に対応できるようにしている。	入浴は、毎日の希望にも柔軟に受け入れ、時間帯も選択できるように応じている。介助者2人で、安全に安楽な入浴を支援している。拒否の人の対応は、タイミングをずらしたり、気分転換を図っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間だけの睡眠時間をみるのではなくご本人が休みたい時に、睡眠がとれるよう支援している。睡眠場所もその都度支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が服薬内容を把握しており、与薬時他のスタッフに配薬の確認をし二重にチェックをしている。服薬マニュアルを作成しその人にあつた服薬の方法で服用していただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりの生活歴や趣味を把握し、生活の中で出来る事を役割分担してやる気、自信につなげられるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の生活の中で、散歩や買い物に出かけ楽しみを持ってもらっている。ホームの畑で畑仕事を一緒に行っている。	近くの公園を、日常的に散歩をしている。個別には、通院の帰りに、買い物やドライブを支援している。季節ごとの花見や紅葉狩りなどへ外出したり、行き先によっては、家族の協力を得ている。	

岐阜県 グループホーム恵寿式番館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはこちらで管理している。毎日の使用状況をまとめ、ご家族に確認していただいている。希望があれば一緒に買い物に行くなどしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	望みがあれば家族に電話し繋いでいる。ご家族以外への電話は家族に確認を取っている。手紙を出す方には私製のポストを作り投函していただき家族の許可を得て投函しご本人気持ちも尊重出来る支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花や行事を取り入れ季節を感じていただけるよう工夫している。生活スペースについても生活用品の配置など入居者の方が生活しやすいよう随時検討している。	空間は、和を基調とした造りである。食堂兼居間からは、雄大な蓮山が一望でき、天窓からは、星空を眺められる。加湿器を4台配置し、空調を整えている。季節感のある手づくり作品や草花を飾り、居心地のよい、生活空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭い空間であるが、一人ひとりが安心できる場所やプライベートを守れる居場所、楽しめる場所を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、以前から使っていた家具、生活用品を使用していただきその人に馴染みのある生活空間作りに努めている。	居室には、エアコンとクローゼットが備えつけてある。使い慣れた家具や置き時計、カレンダー、掛け軸などの生活用品を持ち込み、安心して、居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の状況に合わせた環境作りを行い、安全に生活できるようスタッフが支援している。		